

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170200455), 法人名 (医療法人社団 豊生会), 事業所名 (グループホームすぎの子 1階), 所在地 (札幌市東区東苗穂3条1丁目13番29号), 自己評価作成日 (令和3年12月4日), 評価結果市町村受理日 (令和4年2月25日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ダイバーショナルセラピーの考えを取り入れ事業所理念である「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」を実践。
・ケア記録ではその方の思いをくみ取る記録を行い、日々の活動や行事、ケア計画に反映し実践しております。
・また、法人各事業所とも連携体制があり、医療はもちろんのこと、リハビリ、栄養、口腔ケアなどの専門職との連携を行い、
・最期までその人らしく、楽しみがあり穏かで安心して過ごせるように日々関わらせて頂いております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022&kani=true&ligvosvoCd=0170200455-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年1月28日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1) ホームの運営構成と設備等の環境； 閑静な住宅街にある3ユニットのホーム。医療・福祉機関等も含む母体法人での相互の専門職機能、設備機能を生かした運営に努めている。
2) 運営理念と職員の介護姿勢； 「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」を事業理念の下、職員は実践に基づく研修を重ね、相互理解を深め、利用者本位な介護実践、特に、ダイバーショナルセラピーの取り組みなど、個々のケアマネージメントに真摯に取り組んでいる。これらの介護活動は家族の高い信頼を得ている。
3) 運営推進会議の働き； 通常は、地域・家族等関係者参加の下に、定例に開催。円滑な運営に寄与している。コロナ禍の下では、書面での連絡等で関係者の理解を深めている。
4) 地域住民組織等との連携活動； 母体法人の専門的業務の多様性と地域のつながり重視の視点から、地域カフェや行事に伴う参加と協力等に積極的に係り、利用者の日常生活に大き役割を果し、業務の理解も得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding, user participation, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」を理念に掲げ、玄関に掲示して職員に周知している。理念をもとにケアプランの作成と実践に繋がっている。	職員は簡潔で、平易、理解しやすい、利用者本位の業務理念を真摯に受け止め、経験豊かな同僚との実践的・経験実績の下に研修を重ねて、この理念を共有し、介護の成果の向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在はコロナ対応にて以前のように外出は出来ておらず、交流は少ないが少しずつ散髪などを受け入れ交流は始まっている。	従来の地域との交流は、コロナ禍で、自粛しているが、基本的運営姿勢は変わらず、馴染みの散髪等関係者の活用に留意した状況にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ対応にて実施出来ていないが、普段は法人内での健康教室やワクワク広場などの地域の方々が参加できる催し物を開催し、利用者様も参加される事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対応にて、実際の話し合いは出来ないが種類を通して意見交換を行い、日常のケアの向上に活かしている。	2年続く感染拡大の状況にあつて、利用者の入居・健康状況や日常の行事等を書面で推進会議関係者に定例報告して、意見を求め、相互の理解に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	都度、電話や電子メールにて情報や意見交換を行っている。	感染拡大の状況にあつて、関係者・機関の集いも少なく、業務上の報告等を通じて、必要な情報交換に努め、意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ対応にて外部研修会や職員が集まった研修会には行っていないが、資料を作成して書面で自己学習という形で職員の理解を深めている。	日常業務を通じて、課題事項を検討して、資料作成等による書面での相互理解を図り、課題に応えられるよう示唆して、相互の理解を求めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ対応にて外部研修会や職員が集まった研修会には行っていないが、資料を作成して書面で自己学習という形で職員の理解を深め、職員間でも情報の共有をして虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様を通じて学ぶ機会があり、必要な支援を受けられるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に管理者がご家族様に直接口頭や文章で理解、納得して頂けるまで説明を行い同意の元で契約している。改定時もその都度口頭と文章で説明を行い理解と了承を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見、要望などがあればその都度話し合いの場を設けて各フロア、事業所全体の質の向上に努めている。	今回の調査結果では、家族アンケート調査回収率も高く、活発な意見・要望、職員の真摯な介護対応と姿勢、面会の機会の緩和、お便りの報告等の意見が示されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課の他、定期的に行う面談やカンファレンスの中で意見を聞く機会を設け、その内容をリーダー会議の中で議論して運営に反映させている。	定例の人事考課に係る業務上での個々の意向や要望を聴取のほか、日常の定例会議での職位に基づく観察・意見・判断等を通して、職員の意見を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な人事考課を行い職員の評価を行い面談を行っている。個別に今後の目標を定めて、前向きに仕事に取り組む事が出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員と一緒に現場に入る事や面談などで職員の力量を把握している。コロナ対策で外部の研修には参加出来ないが、事業内の研修会を定期的に行ったり、面談時に職員個々に助言やアドバイスをを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ対策で職員が他事業所との合同での研修会などは行えていないが、管理者同士での交流はあり、又法人内のメールなどを活用して職員を含めて情報交換を行い、お互いの事業所の質の向上に向けた取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する事前にご本人様とご家族さまと面談を行い、当施設の説明を行い、不安な事や要望などを聞きながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する事前にご本人様とご家族さまと面談を行い、当施設の説明を行い、不安な事や要望などを聞きながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談にてご本人様、ご家族様の意向を確認し、他事業所などからの情報も得ながらサービス見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の主体性の尊重を一番とし、出来る事はして頂く、出来ない事は職員がお手伝いを行いながら自立支援の観点を心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ対応の為、面会は制限つきで行事等の参加も出来ない状況だが、特変があればその都度、電話で状況を報告したり、定期的にご家族様の意向を確認し、関係性が継続出来るように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対応で外出は難しいが、ご家族様との面会は制限付きではあるが実施している。又、日常会話や行事等に昔の馴染みの話題や事柄を取り入れる工夫をしている。	コロナの感染状況に応じた家族の面会規制や緩和の措置等、最も馴染ある関係の家族との交流支援と共に、業務上も欠かせない関係の維持に努めている。平常であれば、地域カフェの参加等地域の交流を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人の性格や要望、身体状況などを考慮して食事やアクティビティなどの座席位置を決めて、利用者様がお互いに関わりを持てるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様からは特に連絡などはないが、必要であれば今後も相談や支援に努めていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接、ご本人様に聞いたり普段の何気ない会話の中から想いをくみ取るようにしている。聞き取りが困難な際にはご家族様から聞いたり、過去の生活歴から日々のケアに想いが反映出来るように取り組んでいる。	職員は、利用者の思いや意向の把握を、最も基本的な介護の姿勢と受け止めている。日常、利用者へ寄り添った会話に努めて意向・想いを捉え、また家族からの情報や特徴を伺って、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	直接、ご本人様やご家族様に聞いたり情報を書面に記載して頂いている。又、以前利用していた施設からの情報も提供して頂き参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様1人1人の様子や体調、特変事項など毎日個人記録に記録し職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成時はご本人様とご家族様に施設での生活の意向を確認し、日々の生活の様子を考慮した上で職員間で意見交換を行い作成している。毎月プラン内容を見直し、必要に応じて変更や追加などを行っている。	介護計画作成にあたっては、日常の介護・ケア会議記録(モニタリングを含む)等を基に、計画作成者を中心に協議の上、家族の意向を含めて職員相互が共有できる計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は毎日個人記録に記録している。毎月のカンファレンスでプランの見直しを行い、必要に応じて内容の変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて法人内外の専門医療機関への相談や受診対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ対応で外出は行なえていないが、普段は近隣商業施設を利用したり、法人の夏祭りに参加して楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人様、ご家族様が希望する医療機関を最優先して利用している。受診時は情報提供書作成して、適切な医療が受けられるように支援している。	家族の意向を含め、利用者本位のかかりつけ医の支援に努めるほか、受診時には情報を書面で伝えるよう配慮し、受診後の記録・支援管理にも留意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時にはその都度、特変事項を看護師に報告、相談しながら医療機関の往診や受診対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は添書や口頭で利用者様の情報を伝えている入院中は電話やメールなどで医療機関と細目に情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、ご家族様には重度化の場合、終末期のあり方について確認を行っている。又、体調が変化してきた際にはその都度、ご家族様と主治医、職員と話し合いを行いながら今後の支援方法を決めて対応している。	重度化・終末期等の処遇対応については、入所時の契約に基づく職員の役割等処遇過程に留意するとともに、家族や医療等関係機関と協議の上、最適な処遇を図るよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成して職員全員に周知して、又、定期的に勉強会を行い、対応出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。コロナ対応にて地域の方の参加は行っていない。	災害等の対策については、防災機関の指導の下に、想定した訓練を実施している。職員の役割、家族等への連絡、防災設備点検、防災備蓄等に留意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の1人1人が職員たちの人生の大先輩であることを忘れずに丁寧な声掛けや対応を心掛けている。	職員は事業理念を遵守して、利用者本位の介護に努め、個々の人格やプライバシーを損なうことのない介護に専念している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が何でも決めてしまう、やってしまう事がないように、その都度何を飲みたいのか、何を食べたいのか、どの洋服を着たいのか等を自己決定が出来るような掛け対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や入床、起床時間のタイミングなど、その方のペースを可能な限り尊重して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様だけでなく、ご家族様や過去の情報も参考にして嗜好や趣味に合わせた身だしなみ出来るように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日や行事の際には希望の食事を取り入れたり、日常的に盛り付けや野菜の皮むき、おしぼりたみ、食器拭きなどのお手伝いを職員と一緒にやっている。	食事支援は介護の最も重要な事として、個々の心身の状況、希望、季節等に合わせたメニュー等に配慮している。また皆で参加する食事作りを大切に、其々に応じた参加を勧めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量を記録し、往診時に主治医や管理栄養士などに相談しながら、必要な栄養や摂取量が不足しないように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促して行って頂き、必要に応じて援助を行っている。又、口腔内に不具合が生じた際には歯科の往診を受けて頂き対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自らトイレに行かない方でも、排泄パターンを把握し、職員の方からトイレ誘導の声掛けや必要に応じて援助をおこない、トイレ内で排泄で出来るように取り組んでいる。	排泄の支援にあつては、自立支援を基本に、職員相互の情報共有の下に、個々の排泄パターン等心身の状況等に応じて、声掛けや誘導でのトイレ排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食品を提供したり、腹部マッサージや医療機関と連携して内服薬の調整などを行い便秘対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間や曜日は可能な限り要望に応えられるよう対応している。利用者様に好みの湯加減を調整したり、入浴剤を使用するなどして入浴を喜んで頂けるよう対応している。	入浴支援には、時間・曜日に拘らない、利用者の希望本位の対応姿勢で臨んでいる。楽しく、安らげるよう、本人の気分、湯加減、入浴剤などに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状況や習慣に合わせて自由に休息をとって頂いている。室温や寝具の調節が難しい方にも状況に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示や薬表を参考に職員は薬の内容、使用方法などを把握している。個人記録に内服や使用によつての変化を記録し、往診時にその都度報告し指示を受けて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の食事作りのお手伝いやフロアの飾りつけを手伝って頂いたり、お誕生日には好物を提供する、コロナ対応で買い物に行けないので、好みの服をカタログショッピングから購入するなど対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対応にて外出は控えており行えていないが、普段は希望に応じて近隣の商業施設などに外出して買い物や食事を楽しんでいる。	2年続くコロナの感染拡大の状況にあって、外出は自粛せざるを得ない状況にある。平常は近隣での買い物など、季節感を味わい、楽しんでいる。なお、家族の面会頻度の緩和などでの対応に工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ対応の為、外出が行えない為、お小遣いの中から職員が買い物代行を行ったり、カタログから選んで頂いてカタログショッピングを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	コロナ対応にて面会制限がある為、電話やズームなどを使用して交流を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアに季節を代表するような飾りつけを行い季節感を演出したり、室温や湿度にもその都度細目に調整して配慮している。	南に面した居間は明るく、2・3階は閑静な住宅街の見晴らしもよい。食堂・居間での集いや居室と介護設備等の利便性もよく、かつ温暖管理や季節感ある飾りつけなど寛げる環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様1人1人の性格や人間性、他者との関係性を考慮して席の配置を決めたり、必要に応じて職員が介入したり、関りを持つことで対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた、馴染みのある家具などを持ち込んで頂き、引き続き使用して頂いている。必要に応じて利用者様、ご家族様と相談しながら新しい物も購入もしている。	居室への支援は、家族の協力を得て、個々の馴染みの家具等、置物や飾りつけ、時に新たなものに換えるなど、住まいづくり支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かるように名前を名前を貼ったり、すぐに手が届くところに配置したり、障害物にならないように物の配置にも配慮して対応している。		